

第3日（3月4日）

1 杉田源太郎議員（質問方式 一問一答）

答弁を求める者 市長

1 大井川焼津藤枝SIC周辺まちづくり委託事業の経過と今後の進め方について

昨年9月議会で質した件についての確認と今後の「まちづくり」の進め方について質問します。委託コンサルタントは3月20日までの期限での作業を受けている。

(1) 委託された事業内容について

ア 「6つの機能をどの辺に配置するかというのがコンサルタントの主な作業」で「準備組合がA・B・Cの3つのゾーニング案を一つにまとめ、それを基にコンサルタントは土地利用構想としてまとめていく」という答弁があった。準備組合はどのような案にまとめたのか。またコンサルタントはそれを基に土地利用構想（計画）をどのようにまとめたか

イ 「市場調査を行うことが今回の目的」との答弁だった。「民間事業者への調査」が行われていると思う。その結果はどのようなものだったか

ウ 「事業化に向けた課題につきましては、静岡県の都市計画の方針と整合を図る必要がある」という答弁があった。「事業化に向けた課題」は何か。どのように整合性を図ったか

エ 「土地利用を要望する企業」がありその誘致を前提に土地利用計画がまとめられる場合はこの区域が「市街化区域編入」が条件となる。計画提案では「市街化区域編入」の説明はどのようなになるのか

オ 2025年度当初予算の概要 主要事業（政策別事業）説明の中で安心安全で快適に暮らせるまちづくり、政策5-23にはSIC周辺整備事業には「大井川焼津藤枝SIC周辺において、土地区画整理準備組合による、まちづくりの検討を支援する」とある。市のダイヤモンド構想に沿った「まちづくり」構想を業務委託してそれを準備組合に提起することが「まちづくりの検討を支援する」ということでいいか

(2) 農政について

昨年の「令和の米騒動」は日本の食と農の危機の一端を顕在化した。農業者数の減少が加速して農業が疲弊している。食を外国に依存し、農業をつぶしてきた政治の結果だ。

農業の再生、食用の安定供給に踏み出さなければならない

ア 市街化区域への編入が決まった場合、地域の営農は続けられるか

イ 自民党政権は昨年25年ぶりに食料・農業・農村基本法を改定した。農業者の激減を不可避として、大規模化や効率化、スマート農業の推進を強調している。焼津市農政は「農業を守る」という立場からどのように対応するのか

ウ 新規参入者を含め多様な担い手の育成・確保を市としても農協と連携しながら事業を進めている。今年度の事業では何を行いその成果はどうであったか

2 災害予想と対策について

昨年の2月議会、9月議会で地震災害と災害対策について質問をした。

能登半島では地震、被災地を大雨洪水災害、珠洲市ではいまだに道路の改修が進まず復興に手が付けられない状況にある。8月には日向灘沖での大規模地震発生で南海トラフ臨時情報が発表された。その後、静岡県を含め全国各地で地震発生情報が続いている。

先日1月30日焼津市社会福祉大会で「南海トラフ地震、想定される最大被害とその対処法」について記念講演が行われた。明日起きてもおかしくない大地震。地震発生後30分以内に津波第2波10m以上の大きさ。避難タワーはあるけれど高台地域は少ない。地盤が弱い地域での液状化現象の発生津波・浸水対策に絶対はない。

大地震による上水道、下水道・下水処理の被災についての想定・対策、原発災害時避難対策について確認する。

(1) 市の被害想定と対策

ア 地震とは関係なく、1月29日埼玉県八潮市で道路陥没事故が発生した。多くのインフラ設備に影響が出ている。大地震・大津波による市内インフラ設備への影響はさらに心配だ。大地震・大津波による被災をどのように想定しているか。またその対策をどのようにすすめているか

イ 能登では地震津波と液状化による災害が注目されている。液状化はどの地域に発生し、それによる被災をどのように想定しているか

ウ 下水管排水路が使用できなくなるとトイレ・風呂・炊事等家庭水使用ができなくなる。大災害被災時避難生活はトイレに始まりトイレに終わる。

公共下水道利用地域、それ以外の地域の避難所・避難生活でのトイレ対策は

エ 被災後公共下水道利用地域、それ以外の地域での復旧時、下水処理方法についてはどのように考えているか

(2) 原子力災害発生時の対応

ア 2月2日午前、県及び関係市町主催による新東名高速道路静岡サービスエリアにおいて、避難退域時検査と除染等の原子力防災訓練の実動訓練が行われた。

(ア) 市内参加状況は（職員、市民他）

(イ) 広域避難する際の避難退域時検査場所、避難経由所の運営が行われたとの報道がある。今回の訓練についてよかったこと、改善すべきこと等はどのようなことか

(ウ) 原子力防災のしおり広域避難ガイドブック：令和6年11月焼津市が全戸配布されている。この内容について説明会を地域毎開催してもらいたいとの声が寄せられている。市民への説明は必要だ。説明会開催は予定されているか

イ 焼津市の避難行動について

(ア) 自家用車での避難はどの程度見込んでいるか

(イ) バスでの避難者はどの程度見込んでいるか。（バスは何台来るのか）

(ウ) 施設等入所者の避難にこのバスは使用されるのか

(エ) 避難道路の被害状況をどのように想定しているか

(オ) 検査場所での検査・除染にかかる時間からの問題点は

(カ) ペットの避難に対応できるか

(3) 要配慮者の避難行動対策について

ア 南海トラフ地震臨時情報など、地震の発生が想定されたとき、地域で避難支援を

要請されている方を支援する体制はできているか
イ 障がい者について、支援される側、支援する側の話し合いはされているか

2 鈴木まゆみ 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求める者 教育長

1 不登校対策について

近年、全国的に小中高生の不登校児童生徒数が増加傾向にあり、深刻な社会問題となっている。本市においても、例外ではない。子どもたちが安心して学校に通い、充実した学校生活を送るためには、不登校支援の強化が喫緊の課題である。

昨年秋、総務文教常任委員会において、「地域と学校に新たな絆づくり」と題する提言書を市長に提出させていただいた。本提言書では、不登校児童生徒への支援の充実や、地域と学校との連携強化の必要性について提言させていただいたところである。本日は一般質問において本市における不登校支援の現状と課題、そして今後の対策について、見解を伺う。

本市の小中学校の児童生徒数はH30年に比べてR 5年では1,132人減少しているにもかかわらず不登校児童生徒数はH30年に比べて265人の増加になっている。

不登校対策の支援強化について

ア 不登校の要因は複雑多様化しており、「相談できない、したくない」という保護者がいるが、どのような対策が必要と考えているか

イ 子どもたちに配布されているタブレットを含め、ネット上で保護者とも相談ができる窓口が必要と考えるがどうか

ウ 昨年秋に3か所目となるチャレンジ教室、東益津チャレンジが開設されたが、子どもたちの様子、運営状況、新たな課題などを教えてください

エ チャレンジ教室にも通所することができない児童・生徒がいるが、対策は講じられるか

オ チャレンジ教室のステップアップとして学びの多様化学校の設置が求められている。今後検討されるか伺う

カ 県がフリースクール等に対し、運営費の一部を補助しているが、本市はどのように考えるか

2 コミュニティ・スクールについて

昨年、文部科学省主催の全国コミュニティ・スクール研究大会に参加した。コミュニティ・スクールは施行20周年となった。コミュニティ・スクールのこれからの目標は、「2040年へ向けて持続可能な社会の創り手を育成するコミュニティ・スクールの導入」としている。社会教育と学校教育がこれから一体となって造り手を作っていく、そうすることで社会に基盤を作り直すことができるのではないかとのことだった。

本市は令和5年度から市内全中学校区（9つの地域）において、コミュニティ・スクールがスタートした。3年先行した地域が1か所、2年先行した地域が3か所となっている。

(1) コミュニティ・スクールの現状について

ア コミュニティ・スクールの運営における課題や改善点について伺う

イ コミュニティ・スクールの活動が、児童生徒の成長や地域社会の活性化につながっているよい事例があれば伺う

ウ 学校運営協議会委員の選出方法、またその際に課題があれば伺う

(2) コミュニティ・スクールの推進に向けた取り組みについて

全体で目指す姿の共有化を図るために、合同連絡協議会の立ち上げや活動推進に向けた文部科学省「CSマイスター」の配置についてはどうか

(3) 今後の展望について

2040年を見据え、持続可能な社会の創り手育成に向けたコミュニティ・スクールに期待することについて伺う

3 食の在り方について

食品ロスについて

本市はごみ資源循環プロジェクトの一環として、食品ロス、生ごみ削減に向けた取り組みを推進している。その一環として、家庭で余っている食品を回収し、フードバンクなどを通じて必要としている人に届けるフードドライブを実施していることは承知している。一方で、学校給食における牛乳の提供については、未開封や開封したものの飲み切れずに残す児童・生徒もいるとお聞きした。特に冬季は牛乳を残す児童・生徒が増えるとのこと。牛乳を残して廃棄する場合は、児童・生徒自らが水道の流しまで持って行き、廃棄をしている現状であるとのこと。学校では食品ロスについて学習も行われているかと思うが、牛乳を廃棄する行為は心苦しく感じる。つきましては、この牛乳の廃棄等を含め、以下の点について伺う。

ア 児童・生徒に対し、食品ロス問題に関する教育をどのように行っているか

イ 牛乳の廃棄量を減らすための具体的な対策について、どのような取り組みをしているか